

障害者や高齢者の年齢、身体機能、生活習慣などに添った住環境の改善例を紹介してきたケアリフォーム編。最終回の今回は、トイレと同様、できるだけ住み慣れた環境で利用したいという声の多い浴室のリフォームについて、(有)ラムハウジングで話を聞いた。

## コスト抑え 動線便利に

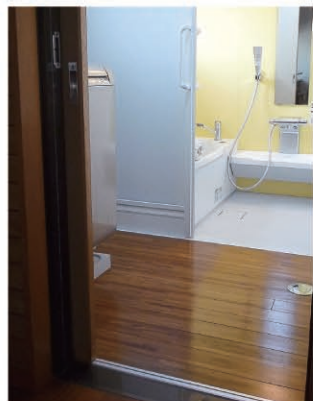
### ケアリフォーム ⑦ (浴室)

#### ●事例紹介

手すりをつけたユニットバス。規格が合わない住宅には、バスパネルを使うなどの対応も可能



洗面所と浴室はバリアフリーで引き戸に改修。すべりにくく温かみある床材に



▲入り口が別で隣り合っていたトイレと浴室  
▶リフォームで1カ所に



玄関回りやトイレに比べ、費用がかさむ浴室のリフォーム。川上優代表取締役は「それぞれ現在の症状や身体能力、介護の必要性などに加え、住宅の造りや先々のさらなる改修の可能性などを、ケアマネジャーや療法士、業者などと、必要に応じて相談するとよいでしょう」と助言する。

浴室自体の改修には、工程が短縮でき、階下への水の漏れの心配も少なく、清掃性にも優れたユニットバスの導入が便利だという。ユニットそのものの保温性で冬場も温かいだけでなく、転倒時のケガ防止効果のあるソフトな床もある。また、手すりや、温風・涼風・乾燥機能、抗菌・ぬめり防止などの

オプションが充実しているのも利点だ(左上写真参照)。そのほか、浴室のリフォーム時に多い改修箇所としては、段差解消やすべりにくい床材への張り替え、間口が広く、開閉が楽な引き戸の取り付けなどが挙げられる(左中写真参照)。川上代表は「水回りをまとめて改修すると利便性が高まり、工事費用が抑えられるケースが多いです」ともアドバイス。トイレや洗面所・脱衣所・浴室を1カ所にまと

めてバリアフリーにすることで、空間が広々と使え、衣類の脱着や車イスでの回転・移動が楽に行えるほか、介護者の動作がしやすくなった事例もあるという(左下写真参照)。入浴用のリフトなどの福祉用具については、ケアマネジャーや福祉住環境コーディネーターの意見も参考にしてみるとよいだろう。取材／藤井千加(ライター) 写真提供／(有)ラムハウジング